

# ゆい 結 通 信

NO. 44

2020年1月25日

## 奪い合う社会から分かち合う社会へ

牧野直子

### 中村哲さんに学ぶ

昨年12月、アフガニスタンで中村哲さんが何者かに狙撃され、亡くなりました。とてもショックでした。箕面のメイプルホールに彼をお呼びしたのは4年前でした。干ばつの土地を現地の人たちと共に用水路を建設し、緑の大地に変えるという彼の活動は多くの人たちに深い感銘を与えました。医療に限界を感じ、医療よりも命の源である水を供給することを考え、後々現地の人たちが保守管理できるように、彼の故郷である福岡の伝統技術を基礎に用水路建設に取り組んだのです。できた農地は65万人の人々の暮らしを支える平和活動の実践でもありました。

### 拡大する地球温暖化の影響

アマゾンの奥地やインドネシア、オーストラリアなど、世界のあちこちで森林火災が起き、膨大な規模で森林が消滅し、多くの動植物が死んでいっているそうです。つまりCO<sub>2</sub>を吸収する能力が急速に失われているということです。動植物の生態系が狂い始めています。そして農業にも影響を与え始めています。近年の異常気象に大きな不安を感じている方は多いと思います。なぜ、こういうことになったのでしょうか？

### 奪い合いに明け暮れる社会に「待った」!

18世紀の産業革命以降、人々は豊かで便利な生活を追い求め、大量生産・大量消費の時代となりました。そのために必要な資源の争奪から戦争が起こり、自然環境は悪化の一途をたどり、今や人間を含めた生命や地球そのものの危機が指摘される事態となっています。それなのにCOP24(国連気候変動枠組み条約第24回締約国会議)でもそれぞれの国の思惑に左右され、具体的な成果がみられませんでした。そしてその中で行われたスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん(16才)の怒りの演説が多くの人の心を動かしました。自国主義に陥っている世界の先進国首脳は彼女の言葉に耳を傾けるべきです。

### 本当の豊かさとは

江戸時代には日本では地域循環型社会が根付いていました。「結みのお」では昨年滋賀県北部の針江集落を見学しましたが、そこでは今でも湧き水を生活に取り入れた生活をされています。限られた地域資源を大事に使っていた江戸時代の生活の知恵に私たちが学ぶことが沢山あるのではないのでしょうか？

昨年、「菜の花プロジェクトみのお」では、岡山県の山奥の西粟倉村を見学しましたが、若い人たちがあらたな町おこしに意欲を燃やしています。最近都会から農村に移り住む若い人たちが増えていますが、彼らには将来に対する危機感があるのだと思います。競争原理、経済最優先が大手を振っている社会はもう限界がみえてきています。それなのに、東京オリンピック、そして大阪万博と、「かつての高度成長時代の夢をもう一度」といわんばかりに経済の活性化をはかろうとしているのは時代錯誤と言わざるを得ません。

### 若い人たちと共に行動を!

今やグレタさんの呼びかけに応じて世界各地に「気候スト」が広がっています。日本でも「グローバル気候マーチ」という名で高校生たちが自主的な行動を始めています。次世代にどのような社会を受け渡していくのか、私も大きな責任を感じています。先日、ある集まりで、若い方々と交流する機会がありました。大学生や社会人になりたての人たちが、主体的に行動を開始している姿に心から拍手を送りました。

これからの世界に希望の光が見えてきた気がします。彼らは「結みのお」の活動に関心を示してくれました。若い方々と力をあわせて持続可能な社会にしていきたいと思っています。そうすることが中村哲さんの思いを受け継ぐことになるような気がします。

本当の豊かさとは何か、「だれもがいきいき暮らせるために、育ちあい、分かち合い、助け合う社会」を実現するためにまずは私たち自身ができることから動き出しましょう!

第12回「結みのお」総会 & 交流会

2月15日(土) 13:30~15:30 サンプラザ地下1階